

かかりつけ医の一言が いつも安心を与えてくれる

小堺一機さん(タレント)

軽快なトークとモノマネで不動の人気を得ている小堺一機さん。働きざかりの2004年、「原発不明頸部リンパ節転移」が見つかり、突然の休業に見舞われます。病気が見つかった前後、そして現在に至るまでのかかりつけ医との関係について伺いました。

これから、医療と介護でまちづくり



小堺 一機 (こさかいかずき)

1956年生まれ。千葉県市川市出身。大学在学中の1977年TBS「ぎんざNOW」の素人コメディアン道場のチャンピオンとなり、卒業後に本格的に芸能活動を開始。その後、国民的長寿番組の司会をはじめ、バラエティやドラマ、舞台などで活躍していたが、2004年、原発不明頸部リンパ節転移を発症し突然の休業。約一か月の休養期間を経て復活を果たした。3月9日～12日、新国立劇場中劇場にて「小堺クンのおすましてSHOW FINAL」を開催する。チケット発売中。

突然にやってきた
発生部位が不明のがん

3人のかかりつけ医が
自分を支えてくれている

今から30年ほど前に声帯ポリープを切除。そこから耳鼻咽喉科の先生とかかりつけ医としてのお付き合いが始まりました。2004年、ちょうど僕が毎年続けている舞台「小堺クンのおすましてSHOW」の準備が始まった頃、首のしこりを発見しました。すぐに先生に診てもらったのですが、単なるしこりと診断されました。ところが、その先生は良い意味で心配性な方で、もう一回診ましよう、という話になりました。再診察の時に、先生が何か言い足りないような顔をしていたのがわかったのですよ。帰宅後に先生から電話があったので、僕の方から「がんですか?」と聞いたら、「そうです」とおっしゃる。しこりの正体は「原発不明頸部リンパ節転移」で、どこで発生したか分からなかったのですが、それが首に転移したというのです。

信頼できる専門医を紹介いただき、すぐに手術をという話になりました。真っ先に思ったのは、20回目となる記念すべき舞台を中止してしまうのは非常に残念なこと。さらに「がん」という言葉自体が強烈ですから、やっぱり「死ぬんだ」と家族のことも考えましたよ。でも不思議なことに入院したら、もうサバサバして聞き直してしまいました。だって、僕には技術も知識もないのだから、先生に全部お任せするしかないと思っただけですね。

10日間の入院生活を終え、約一か月の休養期間を経て仕事に復帰しました。現在は、耳鼻咽喉科の先生と執刀してくださった先生、そして同じマンションに住んでいたという縁で知り合った免疫系の先生の、3人のかかりつけ医にそれぞれ月に回らず診てもらっています。なにせどこで発生したかが不明のがんですから、再発の恐れがないわけではない。でも、3人の先生が寄り添ってくださっているのだから安心ですよ。

かかりつけ医とお付き合いの中で大切なのはコミュニケーションだと思います。日本人の特性として「お忙しい先生に時間を取らせてしまって申し訳ない」とか「こんなことを聞くのは恥ずかしい」と遠慮しがちですが、次の通院までの間、ずっと悩み続けるのは精神衛生上よくないですよ。先生は身近なプロなんですから、本当に小さなことでも恥ずかしくがらずに聞いてしまえばいいと思います。定期的にお会いしているかかりつけの先生であれば気軽に相談できますしね、ちゃんと丁寧に教えてくださいます。

やはり心配ごとがあると仕事に身が入らなかつたりしますよね。家族がいるとなおさらのこと。病気を診てもらったためというよりも、「僕は今、健康なんだぞ」と、いつも安心していられるために通院しているような気がします。そして先生に「大丈夫ですよ」と言ってもらえる、その一言がうれしいんですよ。

もっと知りたい! かかりつけ医

かかりつけ医を 持っている人は



「かかりつけ医」を持つことで、どのようなメリットがあるのでしょうか。日本医師会が行った調査*によれば、「かかりつけ医」を持っている人は受けた医療に対する満足度が高く、検診の受診率も高いという結果が出ています。

なじみの「かかりつけ医」のもとで病気を早期に見つけることができれば、重症化の予防にもつながることができますし、専門の医療機関を紹介してもらうことも可能になります。

健康診断などに行く機会を利用して、ご自身に合った、何でも相談できる「かかりつけ医」を、ぜひ探してみてください。

日本医師会

*第4回 日本の医療に関する意識調査